

開会挨拶

独立行政法人日本学生支援機構
理事長

遠藤 勝裕



皆さん、こんにちは。日本学生支援機構理事長の遠藤勝裕でございます。開会に当たりまして、主催者を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

改めまして、本日はご多用のところ、東京大学大学総合教育研究センターと、私ども独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）が主催いたします国際シンポジウム「高等教育の費用負担と学生支援－日本への示唆」にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

日本学生支援機構は、日本育英会など五つの法人を統合して、平成16年4月に発足した法人でございますけれども、以来、私どもは、日本の国の多様な学生支援事業を総合的に展開する中核機関といたしまして、次代の社会を担う豊かな人間性を備えた優れた人材の育成と、国際理解ならびに国際交流の推進を図って参ったところでございます。

日本学生支援機構が実施しております学生支援の中でも、とりわけ大きなウェイトを占めておりますのは、奨学金の貸与事業でございます。平成26年度において、奨学金貸与に係る年間事業費は、実に1兆2,000億円もの規模に達しておりまして、貸与しております人数は、140万人にも上っております。これは、学生の40%が日本学生支援機構の奨学金を受けているという時代になったということでございます。奨学金事業は、学生の経済的支援という役割を越えまして、既に我が国の高等教育を支える社会的なインフラとしての重責を担っているということでございます。

さて、世界的に見てみますと、各国の歴史的な背景などによりまして、大学の在り方は非常に多様であります。グローバル化や情報化が急速に進む今日の社会におきましては、高等教育の大衆化によりまして、公的な費用負担の限界が顕在化し、ひいては私費負担の増加を招いておりますことは、どの国にとりましても重要な課題であるものと認識しているところでございます。

本日は、イギリス、アメリカ、中国、そして日本国内も九州より専門家の方をお招きして、各国および我が国の高等教育改革の状況をご紹介いただき、議事後半では、国際比較を通じました日本の奨学金の政策の課題につきまして、ご議論・ご示唆をいただきたいと考えております。

最後になりましたが、遠路はるばるお越しいただきました登壇者の方々、ご後援をいただきました日本高等教育学会、ご協力をいただきました文部科学省、そして東京大学大学総合教育研究センターにおかれましては、ひとかたならぬご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。

本日、このシンポジウムにご参加になる皆様、各国の様々な取組につきまして理解を深められ、今後日本の高等教育における学生支援に必要な視点、あるいは課題を獲得するための一助となれば幸いです。

本日が実り多いシンポジウムとなりますことを私も心より祈念いたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。